

研究主題

「協働的な学び」の実現
～協働できるユニバーサルデザインの視点に立った授業の研究～

大阪市立すみれ小学校

1. 取組内容

○研究目的

障がいの有無にかかわらず、すべての子どもの「わかる・できる」をめざした「授業のユニバーサルデザイン化」をめざして、ICTを取り入れた児童の活動の焦点化・視覚化・共有化の研究に取り組むことを目標に、授業研究に取り組んだ。

○研究の概要

7月 研究授業（兵庫教育大学 小川 修史氏）

7月 ICT研修

10月 ICTの具体的活用

1月 区研究発表（ユニバーサルデザインの視点に立った授業）

2月 広汎性発達障がい児童とICT研修（NPOチャイルズ代表 是沢 ゆかり氏）

2月 研究のまとめ

○実践例1

6月4週から7月1週にかけて、4年生国語「走れ」の研究授業を行った。

授業の目標は「中心となる人物に気をつけて、様子や気持ちを考えながら読む」である。Ⅰ次では、国語の目標ともう一つ「自分に合った学習方法を知る」というめあてを児童に伝えておいた。この単元で初めてタブレット端末を使うので、学習するために「自分にとって使いやすいのか」「自分に合っているのか」を確認していこうという視点を入れた。

Ⅱ次の初めに、協働作業を入れた。支援事業で借りたタブレット端末が10台だったので、写真機能で国語の教科書の文章を写す作業をグループで行い、教えあいながら、タブレット端末に取り込むことができた。

次に、タブレット端末に取り込んだ文章を見て音読をした。音読が苦手な児童は拡大して使っていた。「読みやすい」と感じたようだった。

全員がタブレット端末を使う体験をし「楽しい」「もっと使いたい」という気持ちを持った。

タブレット端末と同時に、一人で読むために、文字シートも利用した。透明のOHP用シートに黄色マジックで色をつけただけのものである。

教科書を読むのに使うと「読みやすい」という児童が多かった。タブレット端末か文字シートのどちらを選ぶかは「自分に合ったもの」という視点で、児童自身が選んでいた。



【タブレット端末を使って音読する】



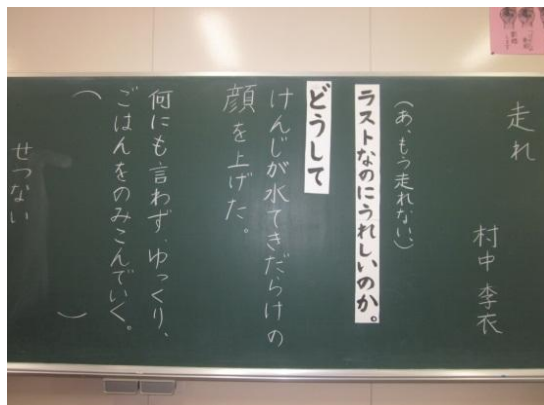
【文字シートを使って音読する】

学習を焦点化する方法として、最後の1行から課題をつかった。結末から読むので「どうしてこうなったのか」自分の読み取りを確認しながら精読をすることができた。課題解決のために教科書、文字シート、タブレット端末など自分に合ったものを選んで集中して音読・黙読する姿が見られた。

視覚化では、タブレット端末を使用することで、自分の見たい挿絵や文章を拡大し、学習の助けとすることができた。これらの個別の学習の後、課題解決の意見を共有した。「どうしてラストだったのにうれしかったのか」という課題について、それぞれが読み取れたものを持ち寄って、文章に基づいて根拠のある考えを吟味していった。

Ⅲ次では「走れ」という教材は児童にとって身近な出来事の物語なので、自分の生活を振り返った出来事を作文に書いた。自分の家族の話と同時に、学習が楽しかったという感想の作文が多くあった。

「タブレット端末を使って私は学習を頑張った」という感想もあった。



【板書】



【授業風景】

2. 成果と課題

- ・ 協働学習として、グループでの活動を取り入れ、教えあいながら教科書の文章を写真に取り込むことができた。
 - ・ タブレット端末が10台だったので、操作の教えあいや協力があつた。一人1台を使わせるよりも、顔を寄せ合って協力して作業する過程がよかった。
 - ・ 自分に合った一人学習を探す視点でそれぞれがタブレット端末、文字シート、教科書を選ぶことができた。
 - ・ タブレット端末の使用により、自分で拡大して読みやすくする作業をして音読することができた。
 - ・ 文字シートを他の授業でも使い続ける児童がいた。
- タブレット端末での作業をプロジェクターで映写して使用する工夫があれば、より視覚化できて共有できた。
- 協働的な学びの評価をどうしていくのか、考えていく必要がある。